

# 音楽で社会貢献する 五嶋みどりさんの活動

## 人文・ジャーナリズム学科 山田健太ゼミが取材

### 寄稿・山崎瀬奈さん(文4)

五嶋みどりさんをご存知ですか？ 彼女は世界で、数人の若手演奏家に活躍しているバイオリニストです。活動の幅は広く、演奏以外にも、自ら行くなど、社会貢献活動も行っていきます。



▲演奏する五嶋みどりさん

6月6日、東京銀座・王子ホールで私たち山田ゼミ(文学部人文・ジャーナリズム学科、山田健太准教授のテーマ学習ゼミ)5人は、ゼミ活動の一環としてその団体のラオスでの活動報告会を兼ねたプレス用のコンサートに参加しました。

若手演奏家の一人、ヘレナ・ペイリーさん(ピオラ)は「私たちが音楽をプレゼンテーションした後、ラオスの子どもたちが一生懸命踊りを披露してくれ、音楽での交流ができた」と語ってくれました。



▲若手演奏家と共に

五嶋さんの活動は、演奏を聴かせるだけでなく、子どもたちに楽器を教えたり、逆に伝統音楽を教わったりと、交流が展開されます。

「多くの人たちとコミユニケートすることが音ください。」

「この五嶋さんの理念を受け継いだ若手演奏家たちが、音楽を通じて子どもたちと交流することで成長し、巡り巡って五嶋さん自身も彼らから影響を受けています。五嶋さんを中心とする、蜘蛛の糸のような連鎖とした、しかし強固なつながりを感じました。」

## 震災時に「専修走好会」を支援 関和成さんに感謝状

東日本大震災時、愛好会(ス、15人が参加)を終え、「専修走好会」(大貫知成代表・経営3)のメンバーを動中に地震が起きた。1時支援した関和成さんに7月間以上、車内に足止めされた14日、阿藤正道学生部長から感謝状が贈られた。

同会は関東大学陸上競技周辺に宿はなく、連絡・移クラブ連盟に所属。12月の動手段もない状況で、「困大学クラブ対抗駅伝大会を」(千葉県いすみ市)へ。駅目指し、練習に励んでいないと様子を見に来た関。長距離合宿(3月8日)さんと出会った。関さんは11日、御宿セミナーハウメンバーを自宅に招き、一部屋を提供。おにぎりの飲み物などを振る舞い、翌12日には、千葉駅までの移動手段を手配した。



小林麻美さん(経済3)は、「関さんご夫妻には信じられないくらい良くしていただいた。このご恩は忘れません」と語った。

関さん夫妻(前列)。後列は左から阿藤学生部長、小林さん、佐藤詠海さん(人間科学3)。

## 専修大学フィルハーモニー管弦楽団の木管五重奏ミニコンサート 昼休みの生田アトリウムで



専修大学フィルハーモニー管弦楽団の木管五重奏ミニコンサートが7月4日の昼下がりに、生田キャンパス9号館のアトリウムで開かれた。写真。ドビュッシー小組曲より「行

▲吉田経済学部教授の模擬授業



▲模擬授業をする嶺井経営学部教授

●県立百合丘高校 「二日体験入学」

7月14日、生田キャンパスに神奈川県立百合丘高校1年生280人が訪れ、大学紹介ビデオを鑑賞のち吉田雅明経済学部教授の模擬授業「教科書の向こうへー進化経済学の挑戦」を聴講し、付属高校出身者で組織するコンパス見学を行った。

●都立天田桜台高校 「二日体験入学」

7月15日、生田キャンパスに都立天田桜台高校2年生134人が来訪。嶺井正也経営学部教授「PISA2009を考える」の模擬授業を受け、コンパス見学を行った。

## 高大連携 活動活発に

高大連携協定校との連携活動が行われ、一日体験入学や在県外国籍生徒と本学学生との交流、司書インターンシップが実施された。

●県立座間総合高校

「在県外国籍生徒と留学生のランチミーティング」

神奈川県立座間総合高校の在県外国籍生徒とのランチミーティングが7月19日、生田キャンパスで行われた。中国、韓国、メキシコ、ベトナム、フィリピンから6人の生徒が参加。専大の留学生8人とランチを楽しみ交流した。

●司書インターンシップ

大学図書館業務の就業体験「司書インターンシップ」が7月25日、生田キャンパスで行われた。神奈川県内の座間総合高校、生田東高、港北高、神奈川総合高の4高校から6人が参加した。



▲留学生が参加したランチミーティング



▲返却された本を元の位置に戻す作業を教わる生徒

## 専大とともに 神田神保町探索



### 図書出版「花伝社」

「自由な発想で時代をとらえる」。平田勝さんが出版社、花伝社をスタートさせたのが1985年。その原点は、同社のモットーとして生きている。社名は愛読書世阿弥の「花伝書」から。机一つ電話一本での多難な船出だったが「8年間在学した学生時代(東大)からの多くの友人に支えられました。」

専修大学教員の著作も多く、小田中聰樹元法学部教授の『希望としての憲法』(99年)、同裁判員制度を批判する(08年)、矢澤昇治法学部教授の『冤罪はいつまで続くのか』(09年)、同『袴田巖は無実だ』(10年)、藤森研文学部教授の『日本国憲法の旅』(11年)などが並ぶ。弁護士の宇都宮健児さん(現日弁連会長)の『だれでもわかる自己破産の基礎知識』は改訂を重ねたベストセラー。また、6月に出した『フランス映画どこへ行く』(林瑞穂著)は、社会問題のテーマが主流だった同社にとって文化・芸術へもジャンルを広げた意欲作だ。

## 自由な発想で時代をとらえる

「社会に出て、必要なと思うものが『もの』の見方。それは失敗やまわり道が許される学生時代に養われるのでは。さまざまな人の手にかかって完成した本をじっくり読むことで、答えをみつければいい」と話す。 ※図書出版「花伝社」 東京都千代田区西神田2の5の11 ☎03・3263・3813



▲左から佐藤恭介さん、杉浦真知子さん(編集担当)、平田勝社長